

まことのぶどうの木としてのキリストの宇宙的な拡大——
ぶどうの木は神のエコノミーにおける三一の神の有機体である

聖書：ヨハネ 15:1-2, 4-5, 7-8, 12, 16-17

- I. 召会の有機的な拡張と宇宙的な拡大は、宇宙におけるまことのぶどうの木であるキリストの枝が実を結ぶことにおける、キリストの増殖です。ぶどうの木は、神のエコノミーにおける三一の神の有機体です——ヨハネ 15:1-2, 4-5, 8, 16。
- II. まことのぶどうの木として、キリストは宇宙における神の活動の中心です——1節。コロサイ 1:15-18. 2:9. 3:4, 11:
- A. 全宇宙はぶどう園であり、このぶどう園の中心はまことのぶどうの木、すなわち御子キリストです。父なる神であるすべて、彼が持っているすべては、この中心のためであり、この中心において具体化されており、この中心を通して表現されます——ヨハネ 15:1. 1:18. 3:35. 16:15. 17:10。
- B. まことのぶどうの木（宇宙における神の活動の中心）は、命の繁殖と増殖のためです——15:5, 8, 16:
1. 命を繁殖させることは、命を広く拡大することです。命を増殖させることは、命を複製することです——10:10. 12:24. 15:16。
 2. この命の繁殖と増殖は、命を表現して御父の栄光を現すことです——8節。
- C. ぶどうの木と枝は有機体であって、御父の栄光を現し、その意向、内容、内なる命、内なる豊富が内側から解き放たれ、表現されるようにします——1, 4-5, 8節:
1. 8節で「栄光が現され」という言葉は、その意向、内容、内なる命、内なる豊富が解き放たれ、表現されるようにすることを意味します。
 2. ぶどうの木の命が枝の繁殖と増殖を通して表現されるとき、御父の栄光が現されます。なぜなら、御父が彼の命の豊富において何であるかが、ぶどうの木の繁殖と増殖を通して表現されるからです。これが御父の栄光を現すことです——4-5, 8節。
- D. 神のエコノミーにおける三一の神の有機体として、まことのぶどうの木は、何百万もの選ばれた者の中での、手順を経て究極的に完成された三一の神の増殖と拡大のためです——17:20-21. 使徒 2:42, 47. 5:14. 6:7. 9:31. 16:5。
- III. わたしたちは、わたしたちがみな宇宙的なぶどうの木の枝であるという事実を、完全に認識する必要があります——ヨハネ 15:2, 4-5:
- A. わたしたちはぶどうの木の枝出しによって、ぶどうの木の枝、キリストの肢体となりました。わたしたちが主イエスを信じたとき、彼はわたしたちの中に枝を出しました——3:15。
- B. わたしたちが枝となることは、キリストがわたしたちの命となったことを意味します——コロサイ 3:4。
- C. ぶどうの木としてのキリストは、枝としての彼の信者たちを通して、あらゆることを行ないます。彼なしに、わたしたちは何もすることができませんし、わたしたちなしに、彼は何もすることができません。わたしたちは彼を必要とし、彼はわたし

たちを必要とします—ヨハネ 15:4-5。

D. ぶどうの木の枝として、わたしたちはぶどうの木の中に住む必要があります— 4節：

1. わたしたちであること、持っているもの、行なうことは、主の中にあり、わたしたちの中の主によってでなければなりません—ピリピ 4:13. II テモテ 2:1。
2. わたしたちがぶどうの木の中に住もうとするなら、まず、わたしたちがぶどうの木の中の枝であるという事実を見る必要があります、次に、わたしたちと主との交わりを維持する必要があります—ヨハネ 15:2. I コリント 1:9, 30. I ヨハネ 1:7. 4:15。

E. 宇宙的なぶどうの木の枝としてのわたしたちの運命は、実を結んで御父の栄光を現すことです。この神の定められた運命は、神の定められた道の実行によって、神の新約エコノミーを完成することで実現します—ヨハネ 15:16。

IV. わたしたちは宇宙的なぶどうの木であるキリストの中に住むとき、召会生活を持ちます— 12, 16-17 節. I コリント 1:2, 9, 30. 6:17. 12:27 :

- A. 枝はぶどうの木と一であり、また互いに一です—ヨハネ 17:11, 21-23。
- B. 召会生活、からだは、互いに愛し合う生活です。わたしたちはキリストの命の中で、キリストの愛の中で、キリストの使命の中で、互いに愛し合う必要があります— 15:12, 16-17。
- C. わたしたちはキリストの中に住むとき、仲間の枝の間ですばらしい交わりにあずかります— 4-5 節. I ヨハネ 1:3-7 :
 1. すべての枝の内なる命は一であり、この命は絶えずすべての枝を循環しているべきです— 2-3 節。
 2. 召会生活はキリストの交わり、交流、共にあずかること、互いに享受することです— I コリント 1:2, 9. 12:27。
 3. すべての地方召会はこの唯一の交わり、すなわち、からだの交わりの中にとどまっているべきです—使徒 2:42. I コリント 10:16. I ヨハネ 1:3。
 4. わたしたちはこの一つの流れの中にいるので、空間によって分離されることはできません。わたしたちはどこにいても、みな一つの交わりの中にいます— I コリント 1:9。

V. まことのぶどうの木であるキリストの宇宙的な拡大のために、わたしたちは実を結ぶための有効な祈りを持つ必要があります—ヨハネ 15:7, 16 :

- A. 祈りは、人が神と協力し同労して、神に人を通してご自身を表現していただき、こうして彼の目的を成就していただくことです—ローマ 8:26-27. ヤコブ 5:17 :
 1. 祈る人は、神と協力し、神と共に働いて、神に人の内側から人を通して、ご自身と彼の願いを表現していただくことです。
 2. 真の祈りは、わたしたちの存在が完全に神とミングリングされるようにし、わたしたちを二層の人物、すなわち、神と人がミングリングされた人とならせます— I コリント 6:17。
- B. わたしたちは主の御名の中で祈る必要があります。それは、わたしたちが主の中に住み、彼の言葉がわたしたちの中に住んだ結果です—ヨハネ 15:7, 16 :
 1. わたしたちが主の中に住み、彼の言葉をわたしたちの中に住ませるとき、わた

したちは実は彼と一であり、彼はわたしたちの内側で働き、彼の言葉から出て来る願いがわたしたちの中にあるようになり、彼の願いはわたしたちの願いとなります—— 7 節：

- a. わたしたちが祈りの中で願っていることを求めるとき、わたしたちが祈っているだけではありません。なぜなら、彼がわたしたちの祈りの中で祈っているからです。
 - b. 主はこのような祈りに答えます。なぜなら、それはわたしたちが主の中に住み、彼の言葉がわたしたちの中に住んだことの結果であるからです。
2. 主の御名の中で求めることは、わたしたちが主の中に住み、主と彼の言葉をわたしたちの中に住ませ、わたしたちが実際に彼と一になることを要求します

—— 16 節：

- a. わたしたちが求めるとき、彼がわたしたちの求める中で求めます。
- b. このように求めることは実を結ぶことと関係があり、それは必ず御父によって答えられます—— 7, 16 節。